



問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600  
E-mail edu jim@iwate-u.ac.jp URL http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

この冊子はグリーン購入法に基づき基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。



連携協力校 ・公立連携校 ・附属学校

|        |   |
|--------|---|
| 小学校    | 岩手大学教育学部附属小学校<br>盛岡市立仁王小学校<br>盛岡市立城南小学校<br>盛岡市立桜城小学校<br>盛岡市立厨川小学校<br>盛岡市立仙北小学校<br>盛岡市立緑が丘小学校  |
| 中学校    | 岩手大学教育学部附属中学校<br>盛岡市立下橋中学校<br>盛岡市立下小路中学校<br>盛岡市立上田中学校<br>盛岡市立河南中学校<br>盛岡市立大宮中学校<br>盛岡市立黒石野中学校 |
| 高等学校   | 岩手県立盛岡第一高等学校<br>岩手県立盛岡第三高等学校<br>盛岡市立高等学校  |
| 特別支援学校 | 岩手大学教育学部附属特別支援学校  |

専門実習は、附属学校ならびに公立の連携協力校において実施します。2年間の成果は「教育実践研究報告書」として、院生一人ひとりがまとめます。

融合。実践の理論と

高度な教育実践を裏付けるカリキュラム

理論を学ぶ専攻共通科目と選択科目と、実践を学ぶ専門実習、理論と実践を融合するためのリフレクション科目をもってカリキュラムを編成しました。講義は、実務家教員と研究者教員によるチームティーチングを基本とし、演習を重視します。

- 専攻共通科目(必修)**
- ① 特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
  - ② 学習指導要領とカリキュラム開発
  - ③ 学力の向上と学習意欲
  - ④ ICT 活用教育の実践と課題
  - ⑤ 学校カウンセリングの理論と実践
  - ⑥ 通常学級における特別支援教育の実践と課題
  - ⑦ 心理教育的援助サービスの理論と実践
  - ⑧ 学校経営の実践と課題
  - ⑨ 岩手の教育課題
  - ⑩ 専門職としての教員の在り方とその力量形成

- 選択科目**
- 学校マネジメント力開発プログラム**
- ① 学校マネジメントの理論と実践
  - ② いわての復興教育の実践と課題 など5科目
- 授業力開発プログラム**
- ① 教科の指導と評価の実践研究
  - ② 授業の構想と教材研究 など15科目
- 子ども支援力開発プログラム**
- ① 子ども支援のための学校臨床心理学
  - ② 発達援助の理論と実践 など6科目
- 特別支援教育力開発プログラム**
- ① 特別支援学校の実践力 I
  - ② 通常学級における特別支援教育 など9科目

- 実習科目(必修)**
- 学段段階の基礎的・基本的な教育実習(現職院生の場合は教職経験)を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導、学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とします。連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実施します。

- リフレクション科目(必修)**
- 学校現場での実習で得られる学校実践知を教育理論知と融合させて、教育課題の解決に資するための実践的力量を育成するために、2年間を通しての必修科目として配置する科目です。

4つのプログラム制

- ◆**学校マネジメント力開発プログラム**  
学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量の習得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、指導主事及び主幹教諭等)を育成する。
- ◆**授業力開発プログラム**  
教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量を備えた人材を育成する。
- ◆**子ども支援力開発プログラム**  
いじめや不登校など、子どもたちの生活上・発達上の諸課題を的確に把握し、適切な支援ができる高度な専門的力量を備えた人材を育成する。なお、学校心理士の受験資格を得ることが可能です。
- ◆**特別支援教育力開発プログラム**  
特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量を備えた人材を育成する。なお、特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の取得が可能です。

教育実践研究・中間発表会

3月13日・16日の2日間にわたって開催

私は、授業力開発プログラム所属であり、中学校教員の目指しています。『「わかる」「できる」喜びのある授業作りのために』をテーマとして教育実践研究をすすめています。学力向上のために、学習意欲が重要であり、学習意欲の向上には、生徒が「わかった」「できた」と感じることができるような授業を行うことが必要だと考えます。そこで、「わかる、できる授業」の要素を明確にした上で、授業を構想し、検証することを計画しています。

中間発表では、「これまでの研究において、何が分かっており、何が分かっていないのかを明らかにすること」を助言いただきました。それが自分を取り組もうとする研究の価値を示すことでもありますので、見直していきたいと思えます。

また、他の院生の研究では、学校マネジメント力開発プログラムでは、カリキュラム・マネジメントや主幹教諭の役割など、授業力開発プログラムでは教材開発や思考力の育成に関わる内容などがテーマとされていました。子ども支援力開発プログラムでは、子どもた

ちの学校適応感や居場所感など、特別支援教育力開発プログラムでは知的障害教育における主体性などがテーマとされていました。いずれも学校現場の喫緊のニーズに応えようとする意欲的なものであり院生相互に刺激を受けました。(学卒院生 宮野きみ子)



教育学研究科長挨拶



教育学研究科長 遠藤 孝夫  
岩手大学教職大学院は、岩手県教育委員会との連携のもと、高度な専門的・実践的力量を有する教員の養成に努めております。

さて、昨年は、第一期生の現職院生8名、学卒院生9名が精力的に講義と専門実習に取り組みました。理論と実践の融合を目指し、各自の研究にも着手したところです。ぜひ、その成果にご期待ください。